

世界が進むチカラになる。



グラフで見る関西経済 (2023年9月)

2023年9月25日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 関西経済は、足踏み状態となっている。
- 7月の生産は2ヵ月ぶりに前月比マイナスとなり、弱含んでいる。化学、汎用・生産用・業務用機械が減少した。
- 8月の実質輸出は前月比－7.4%と3ヵ月ぶりに低下し、弱含んでいる。
- 個人消費は、物価上昇が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きがみられる。

項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	弱含んでいる(↓)
輸出	弱含んでいる(↓)
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる(↓)
公共投資	高めの水準となっている

注：()内は前月からの変化の方向

生産は、「足踏み状態となっている」から下方修正(↓)

輸出は、「足踏み状態となっている」から下方修正(↓)

住宅投資は、「横ばい圏で推移」から下方修正(↓)

生産

7月の鉱工業生産(関西)は前月比-1.8%と2カ月ぶりにマイナスとなり、弱含んでいる。業種別では、電子部品デバイス、電気機械が増加したが、化学(化粧品等)、汎用・生産用・業務用機械(半導体製造装置、蒸気タービン)が減少した。

鉱工業生産指数

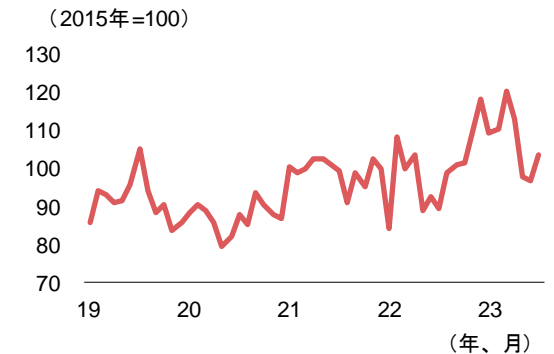


(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

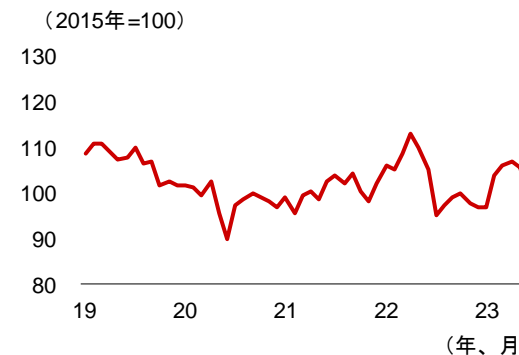
電子部品デバイス



電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械



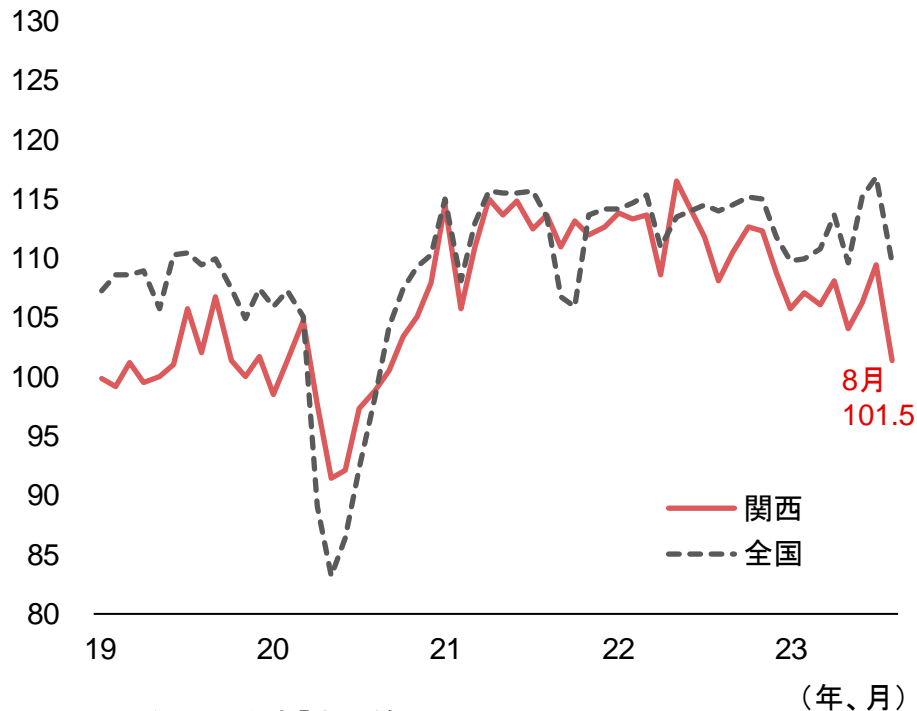
輸出

8月の実質輸出(季節調整値)は、前月比-7.4%の101.5と3カ月ぶりに低下し、弱含んでいる。

名目輸出額(8月)は4カ月連続で前年を下回った。地域別では、アジア、米国、EU、その他地域いずれも減少した。品目別では鉱物性燃料、コンデンサーなどが減少した。

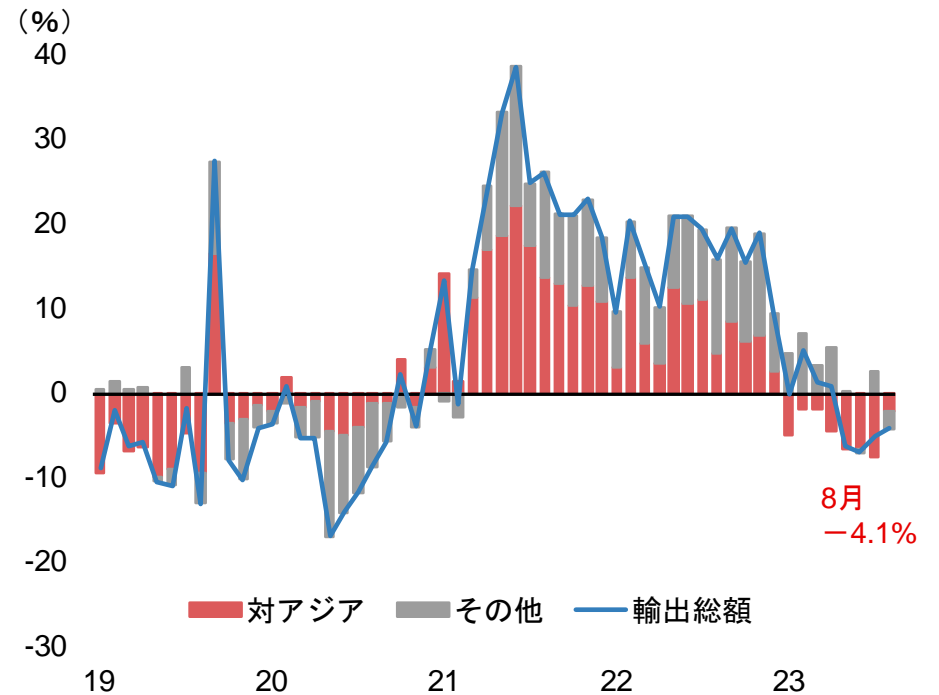
実質輸出指数(季節調整値)

(2020年=100)



(出所)日銀大阪支店「実質輸出入」

名目輸出(前年比、寄与度)



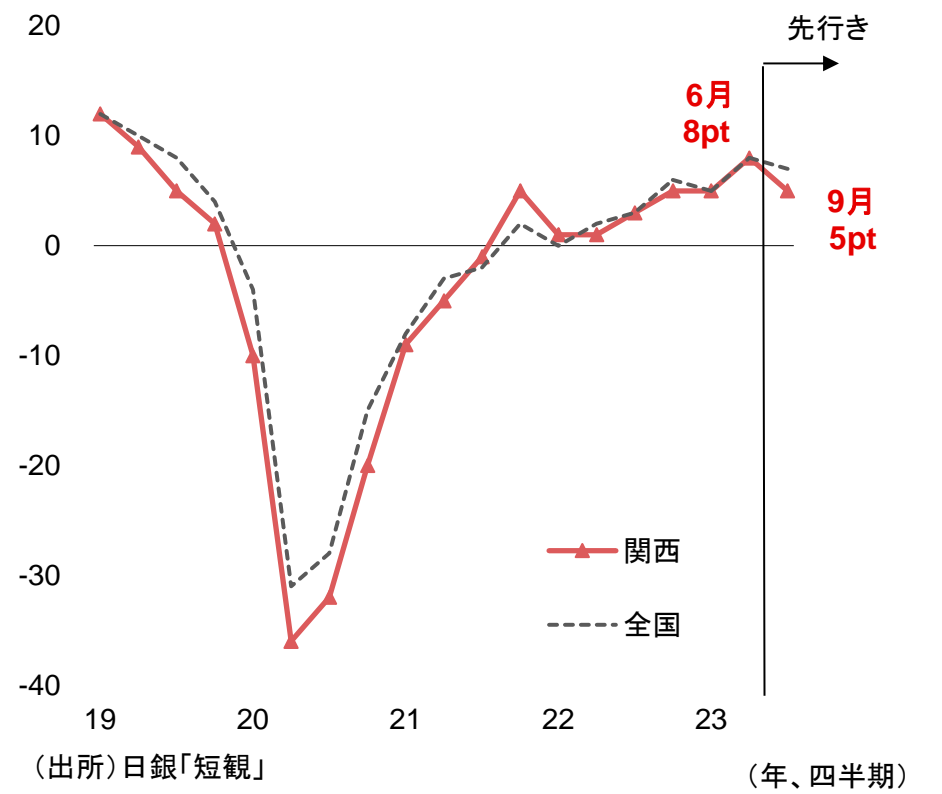
(出所)大阪税関「近畿圏貿易概況」

(年、月)

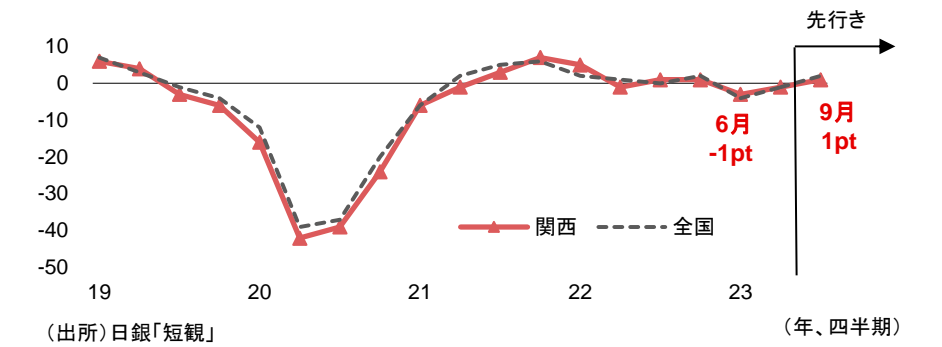
企業景況感(日銀短観) ※以下は7/3公表の6月調査。9月調査は10/2公表予定

日銀短観6月調査の業況判断DIは、全産業で+8ptと6月調査から上昇。製造業は-1と「悪い」超ながら、前回調査からは改善、非製造業は、+16ptと「良い」の超過幅が一段と改善した。コロナ5類移行もあって、宿泊・飲食サービスが大きく改善した。先行き(9月)については、製造業は改善、非製造業は悪化が見込まれている。

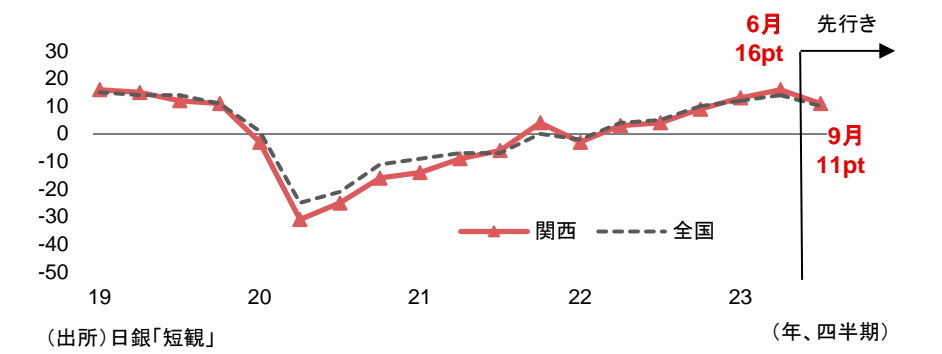
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



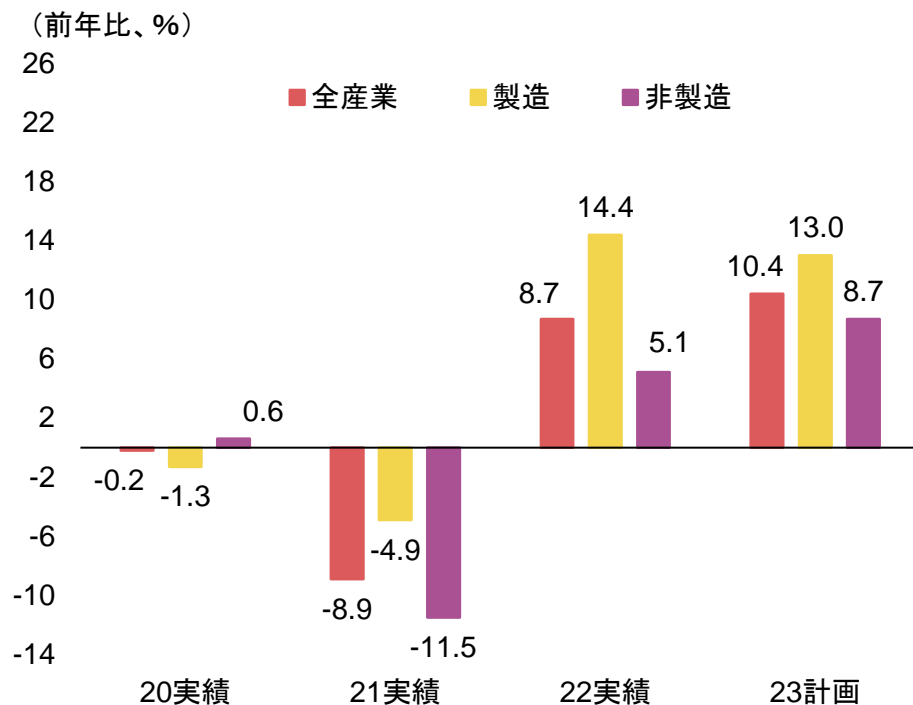
同 非製造業



設備投資※以下は7/3公表の6月調査。9月調査は10/2公表予定

日銀短観6月調査によると、23年度の設備投資は前年比+10.4%と、3月調査から上方修正となった。金属製品、輸送用機械、宿泊・飲食サービスなど多くの業種で前年比2桁の大幅増が見込まれている。規模別では、中小企業が減少を見込む一方、大企業、中堅企業で増加が見込まれている。

設備投資 実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

設備投資額(前年比%)

	22年度 実績	23年度計画		
		今回調査	前回調査 との差異	前回調査
全産業	8.7	10.4	(10.0)	0.4
製造業	14.4	13.0	(12.5)	0.5
非製造業	5.1	8.7	(8.3)	0.4

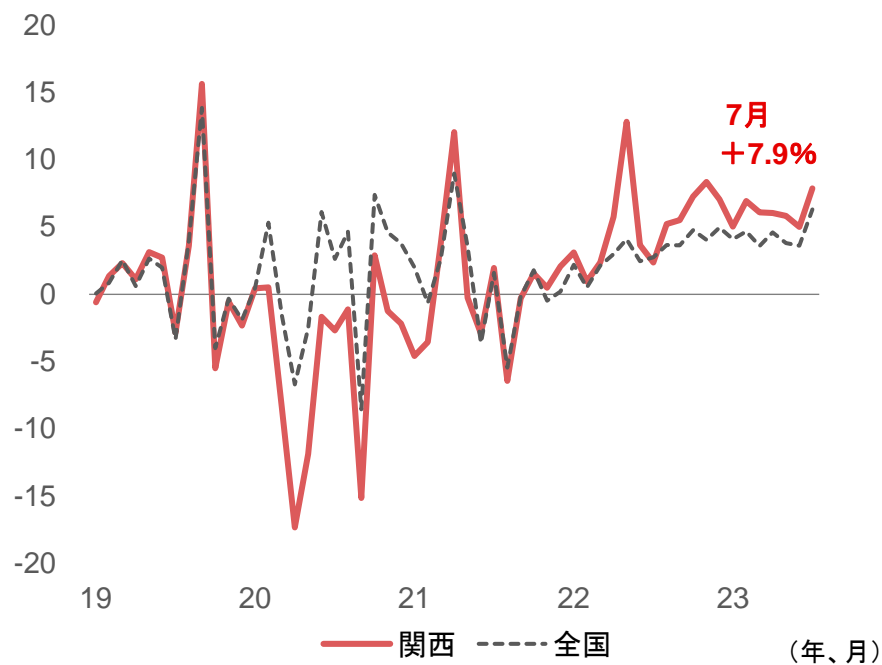
個人消費(小売売上、自動車販売)

7月の小売販売額は前年比+7.9%と22ヵ月連続でプラスとなった。先行きは、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きが続くとみられる。

8月の新車販売は、前年比+28.6%と12ヵ月連続でプラスとなった。水準はコロナ前を下回るものの、持ち直しの動きがみられる。

小売販売額(6業態計)

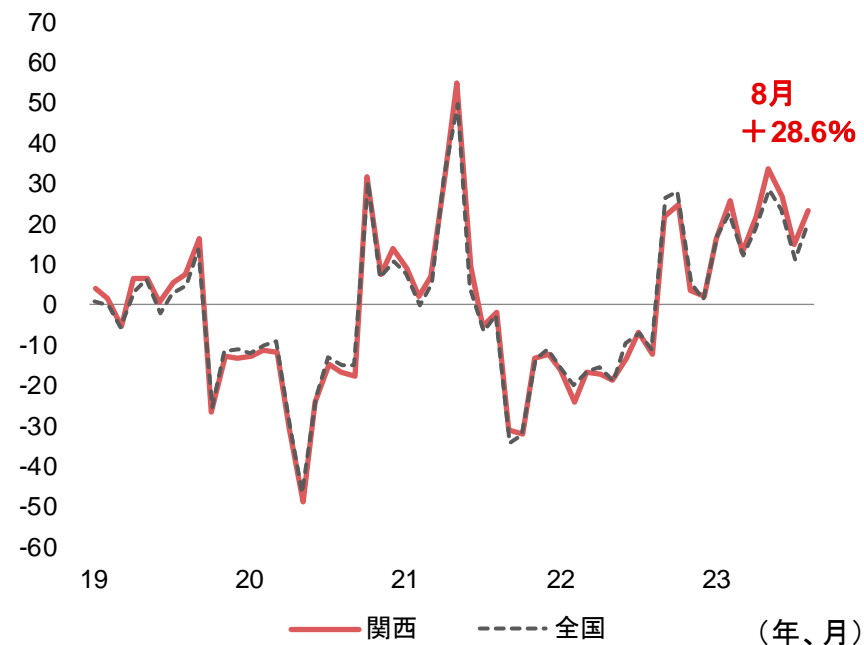
(前年比、%)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」
(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

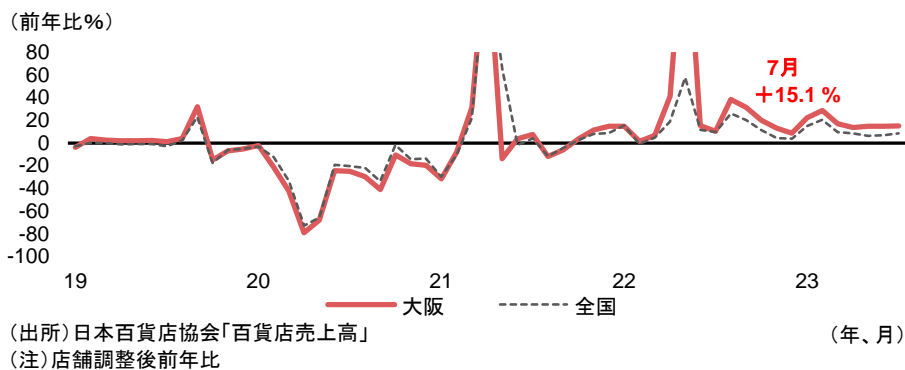


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

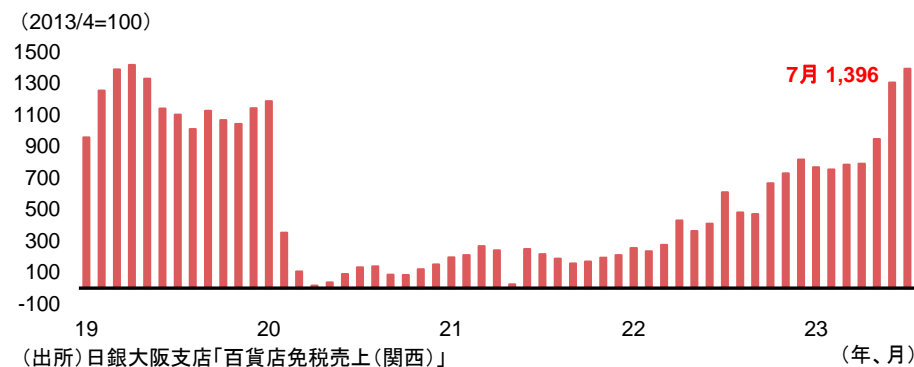
個人消費(業態別)

7月の百貨店売上(大阪)は、外出機会やインバウンドの増加により前年比+15.1%と22ヵ月連続でプラスとなった。京阪神百貨店免税売上指数は、入国制限の緩和以降水準を上げ、7月は1,396とコロナ前の19年同月(1,103)を上回っている。

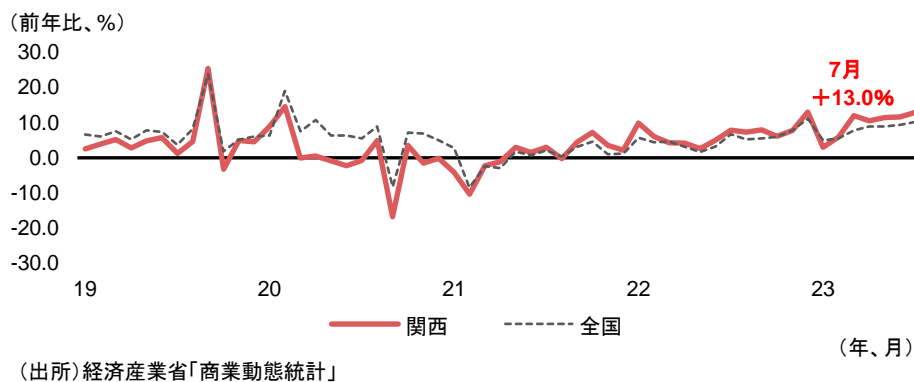
小売販売額(6業態計)



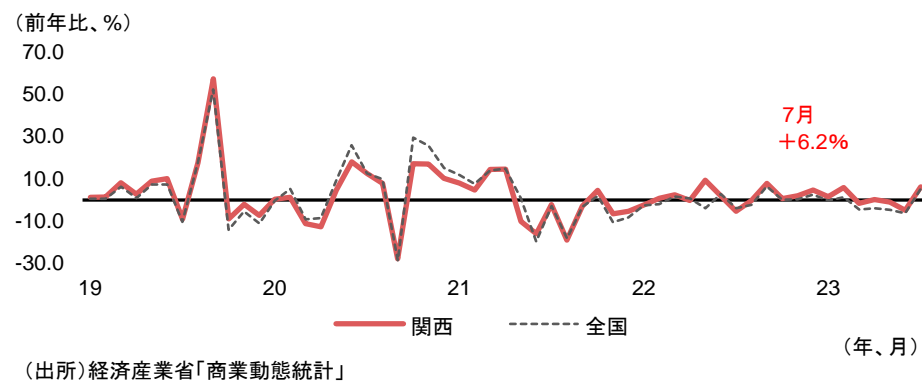
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

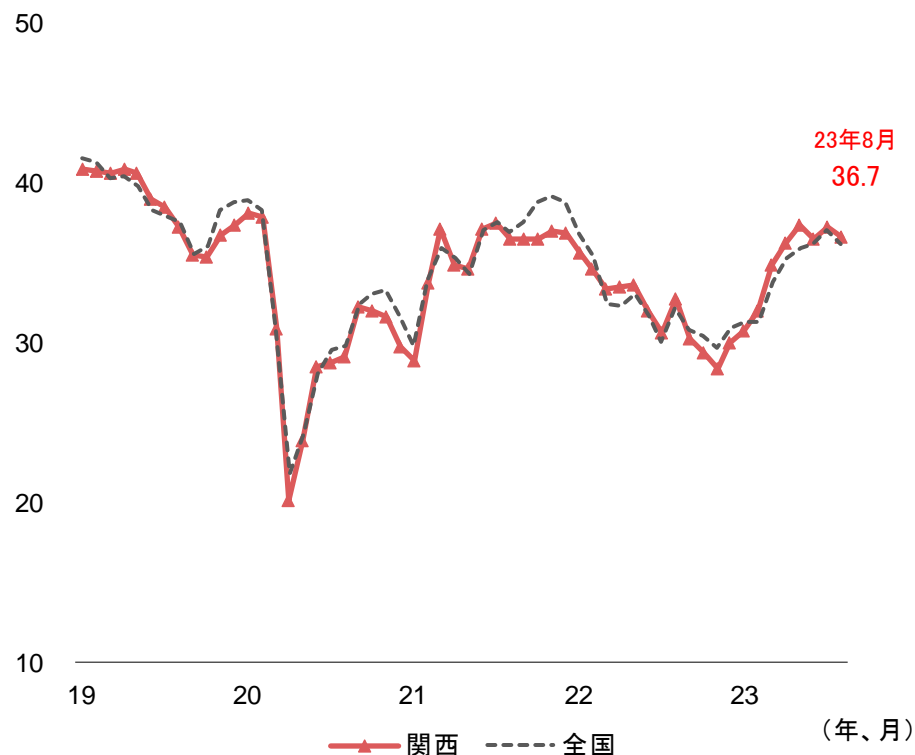


マインド・景況感

8月の消費者態度指数(季節調整値)は36.7と2カ月ぶりに低下した。

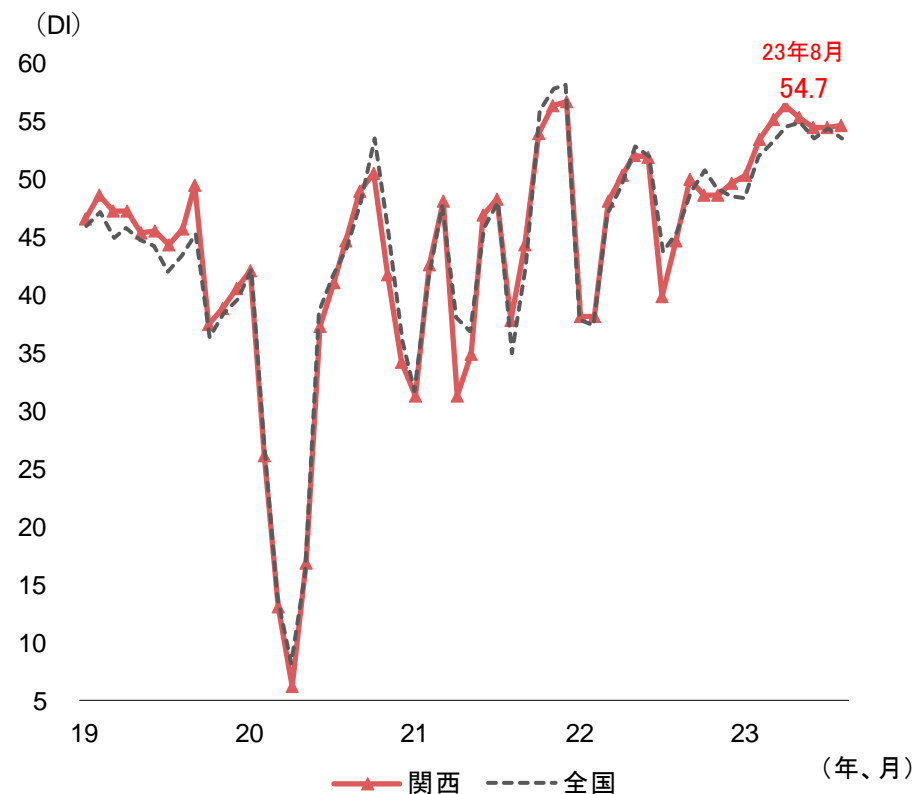
8月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、54.7と小幅ながら2カ月連続で上昇、横ばいを示す50を8カ月連続で上回った。インバウンドの増加が景況感にプラスとなる一方、物価上昇がマイナスに働いた。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

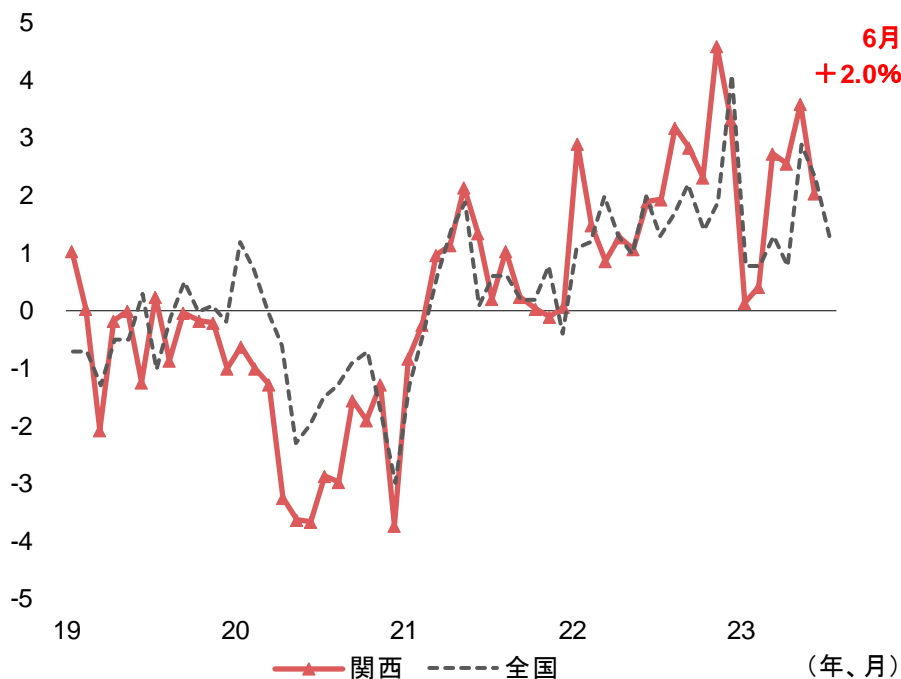
賃金・雇用

6月の名目賃金指数は19ヵ月連続で前年を上回った(前年比+2.0%)。

7月の有効求人倍率は1.18倍と前月から小幅低下。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。23年4-6月期の失業率は2.7%と前期から低下、就業者数は増加した。

名目賃金指数

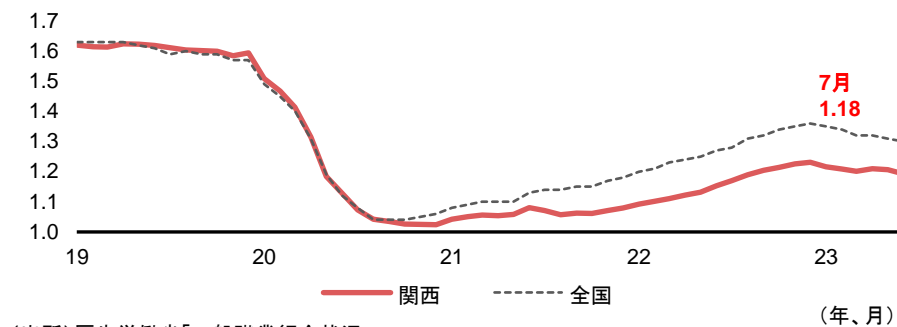
(前年比、%)



(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

有効求人倍率(季節調整値)

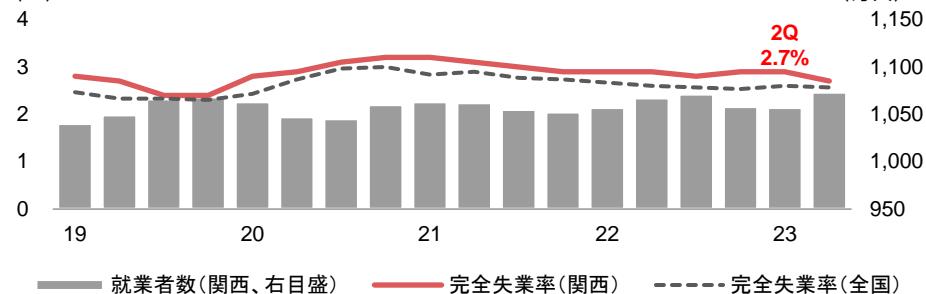
(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

(%)

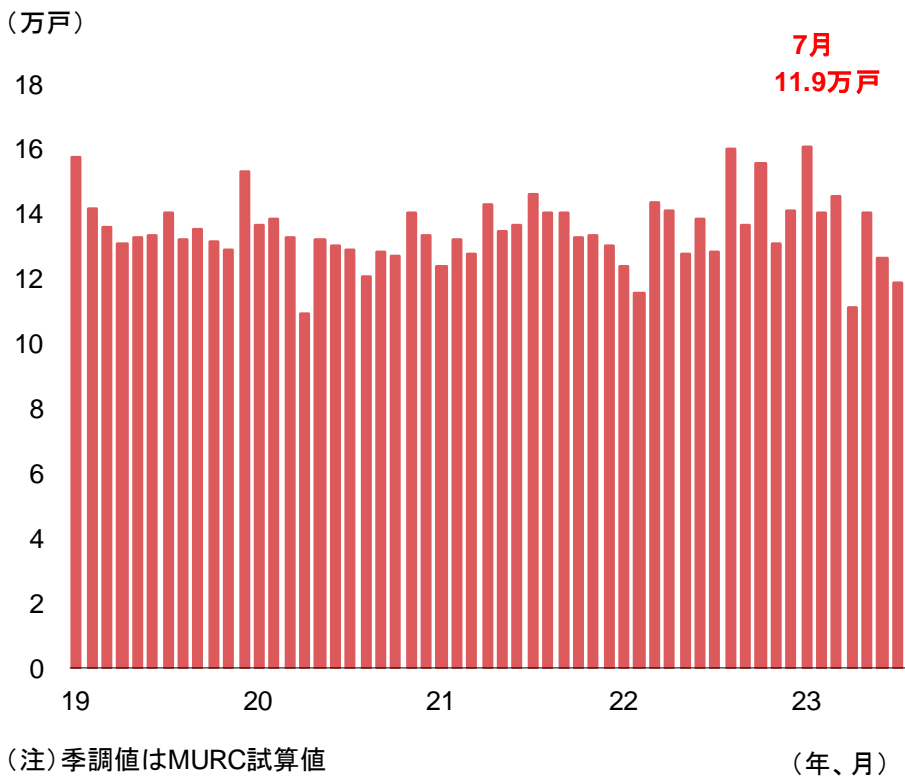


(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

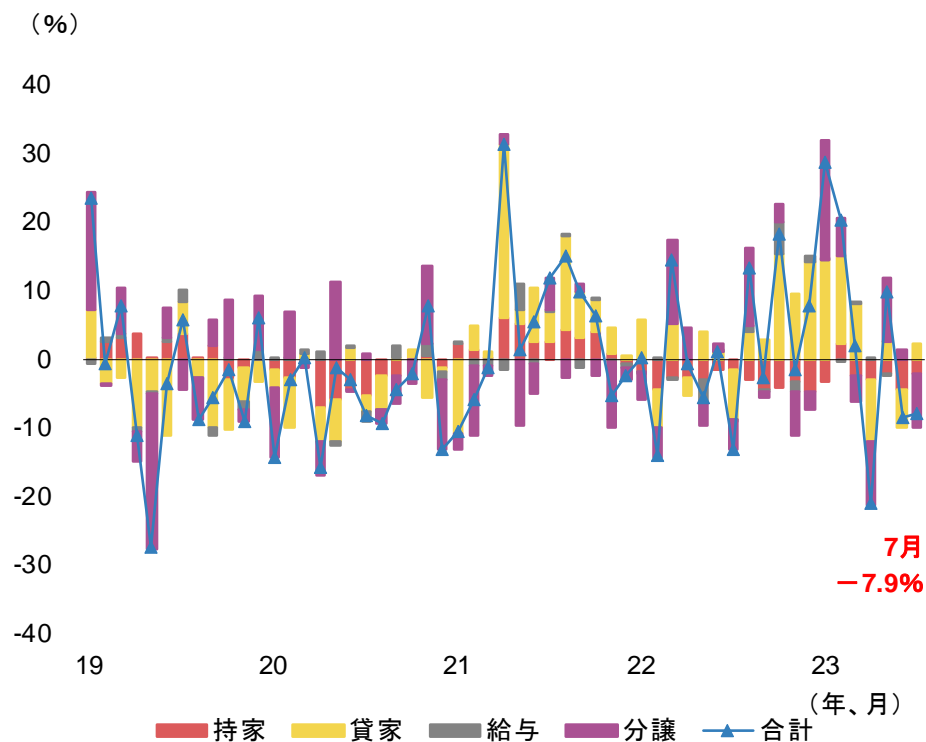
7月の住宅着工は季調・年率11.9万戸と2ヵ月連続で前月比で減少し、弱含んでいる。前年比では、持家、分譲が減少し、全体で-7.9%と減少した。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

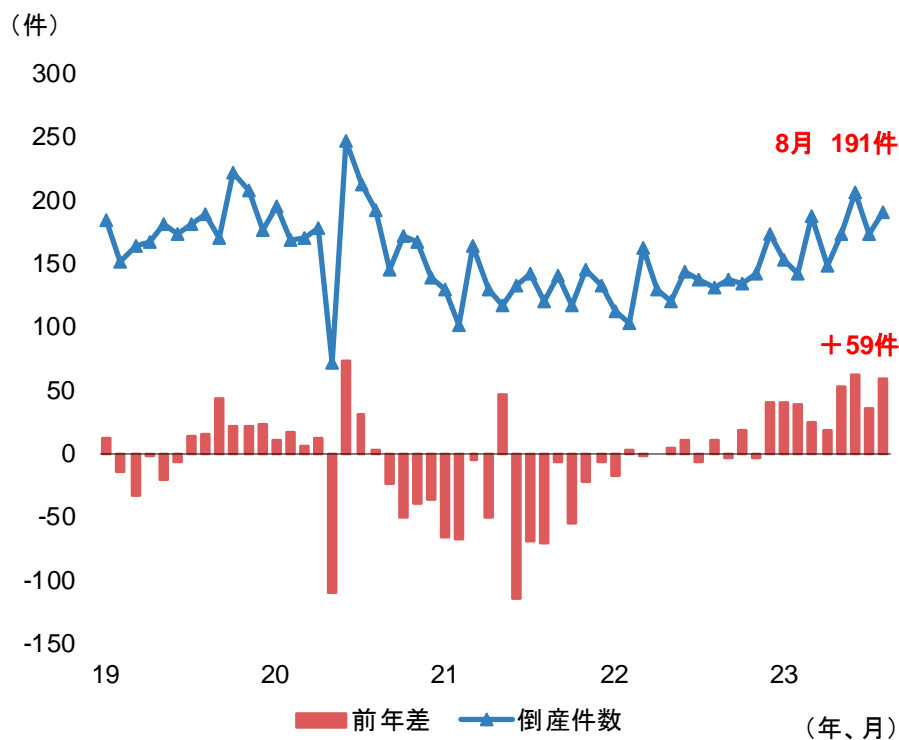


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

8月の倒産件数は191件と前年から59件増加。このところ前年からの増加が続いている。

倒産件数

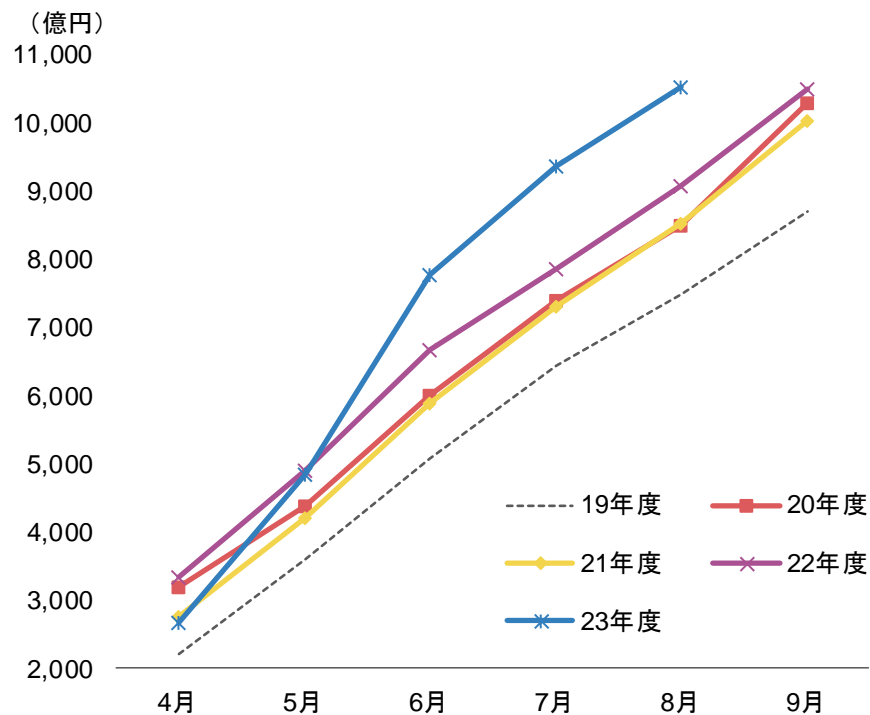


(出所)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

8月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+16.0%の1兆547億円。近年では高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所)東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー